

←この色の部分が2014年4月9日付けで変更になりました。

実際に商品を使用する際は、必ず商品に書いてある説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

〔適用害虫と使用方法〕

※印は収穫物への残留回避のため、本剤及びピフェナゼートを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期※	総使用回数※	使用方法	
きく	ナミハダニ	1,000倍	100~300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (100~300ml/m ²)	開花前まで	1回	散布	
ばら、 カーネーション	ハダニ類			発生初期			
げっきつ				開花前まで			
りんどう		収穫3日前まで					
しそ科葉菜類(えご ま(葉)を除く)		1,500倍		収穫14日前まで			
さんしょう(葉)		1,000倍		2回以内			
いちご				収穫前日まで			
すいか、 メロン、 きゅうり、 なす、 ピーマン		ハダニ類、 トマトサビダニ		1,000倍	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (200~700ml/m ²)		収穫3日前まで
トマト、 ミニトマト	ハダニ類	1,000~1,500 倍		収穫7日前まで			
かんしょ さといも やまのいも		1,000倍		収穫7日前まで			
小粒核果類		1,000倍	収穫7日前まで				
マンゴー アテモヤ	ミカンハダニ、ミカ ンサビダニ	1,000~1,500 倍	200~700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (200~700ml/m ²)	収穫7日前まで		1回	
かんきつ	ナミハダニ	1,000倍		収穫前日まで			
りんご	リンゴハダニ	1,000倍		収穫3日前まで			
なし	ハダニ類	1,000~1,500 倍		収穫7日前まで			
もも	モモサビダニ	1,000倍		収穫前日まで			
ネクタリン	ハダニ類	1,000~1,500 倍		収穫3日前まで			
かき		1,000倍		収穫7日前まで			
あけび(果実)		1,000倍		収穫前日まで			
いちじく		1,000~1,500 倍		収穫14日前まで			
おうとう		1,000~1,500 倍		収穫21日前まで			
ぶどう		ブドウサビダニ	1,000倍	摘採14日前まで但し、 遮光する栽培では遮光開 始14日前まで			
茶	カンザワハダニ、チ ャノナガサビダニ	1,000倍	200~400 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a (200~400ml/m ²)	摘採14日前まで但し、 遮光する栽培では遮光開 始14日前まで	1回	散布	

【効果・薬害等の注意】

- ①使用に際しては容器をよく振ってください。
- ②ボルドー液との混用は効果が劣りますので避けてください。
- ③散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ、調節してください。
- ④本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の裏表に十分に散布してください。
- ⑤ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になりますので、発生初期に散布むらのないようによく散布してください。
- ⑥もものモモサビダニに対して使用する場合、多発生では効果が劣ることがありますので注意してください。
- ⑦なしに使用する場合、以下の事項に注意してください。
 - 新葉に薬害を生ずるおそれがありますので6月以前には使用しないでください。

- 極端な高温、乾燥時は葉に薬害を生ずるおそれがありますので使用しないでください。
- ⑧茶に使用する場合、遮光する栽培とは茶を被覆するすべての栽培方法を指すので注意してください。
- ⑨本剤の連続散布はハダニ類の本剤に対する抵抗性を発達させるおそれがありますので、できるだけ年1回散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用してください。
- ⑩本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特にはじめて使用する場合は、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。
- ⑪適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。

【安全使用上の注意】

- ① かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- ②街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも使用当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

【魚など環境に対する注意】

- ①蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ②水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがありますので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。